

日技新発展『7』プラン

6年間（2014～2019年度）の達成状況

基本戦略

スキルアップ
推進戦略

98%

組織ブランディング
戦略

98%

アクション戦略

94%

外部組織
交流戦略

88%

地域組織
活性化戦略

90%

Office-Nichigi
戦略

90%

危機管理機能
整備戦略

81%

具体的施策

達成割合

総括

生涯研修事業の社会的有用性に向けた取り組み	100
生涯研修事業等の細分化による研修の振興	100
経験豊かな会員による「スキルアップ教室」の開設	100
卒前実技教育セミナーの開設に向けた取り組み	90
歯科技工技術、機材の研究・開発に関する表彰及び助成制度の構築	100
歯科技工所管理者資格制度等の体制づくり	95
歯科技工士の社会的認知促進等のための国民向け広報活動の展開	100
「会章」、「ロゴマーク」等の積極的な活用による社会アピールの促進	100
「デンチャーマーケティング」事業等の調査研究と実施する地域組織支援	90
『歯科技工所常備録（DL ファイル）』の活用推進	100
次世代の歯科技工士をめざす若者を増やすためのキャンペーン活動	100
日技新発展『7』プランの実行と目的達成	91
懸案事項解決のための「総合政策審議会」の設置	100
歯科技工所に対する付加価値基準の具現化と認定制度等の仕組みづくり	95
安定した組織運営のための対象別対策チームの設置	100
会員増強実行体制の確立	85
各国・地域歯科技工士組織との交流強化	100
開発途上国への歯科技工技術支援の展開	95
歯科公益3団体の実務担当者との交流促進	90
歯科公益3団体共同事業の創設に向けた調査研究	60
医療関係従事者団体との交流、連携の模索	90
公益事業促進を目的とした支援協力者との連携	90
本会と地域組織のIT 連絡網構築と積極的な活用	100
地域組織事業の推進と支援のための体制づくり	100
地域組織合同事務センター開設の検討	80
本会と地域組織の役割分担の明文化	80
届出歯科技工所データの適正な管理と活用	90
スマートカードの導入による会員情報の一元化	100
グループウェアによる情報共有密度の強化	100
ファイルの共有化とペーパーレス化の推進	100
過去資料のデータベース化と管理システムの構築	85
各事業部門の事業実施マニュアルの整備	55
効率的な事務局運営のための環境整備	100
本会機能のバックアップ体制の確保	85
危機管理指針と各種マニュアルの作成	90
災害時における日技対策本部と地域組織の連携構築	60
災害時の行政及び関係団体との連携構築	85
災害支援ボランティア活動の調査研究と情報収集	85

生涯研修修了者のHPでの公開や、指定研修の増設等により、生涯研修制度の社会的有用性向上と充実を図ることができた。スキルアップ教室や卒前実技教育セミナーについては、さらなる充実に向けて地域組織や歯科技工士教育機関への支援体制を構築した。

市民公開講座開催に代わる社会PR活動として「読売中高生新聞」に広告を掲載した。若年者に対する訴求として有効だと考えられることから、「ははは川柳」実施や各種ノベルティグッズ作成とあわせて充実を図った。

認定制度等の仕組みづくりとして、「認定歯科技工所管理者及び認定基準適合歯科技工所制度規程」等の案をPTで取りまとめた。今後の理事会での協議や、関係団体との調整等、制度開始に向けた準備を整えた。

ベトナム国立中央歯顎顔病院での研修実施や歯科技工室改修は、開発途上国への技術支援としてこれまでにない取り組みであったと言える。アジア・太平洋地域歯科技工士連盟協議会での各国・地域との交流とあわせて、国際交流事業の柱としての道すじを付けた。

本会と地域組織間のIT連絡網構築により、コスト削減と事務効率向上を図ることができた。届出歯科技工所データについては、定期的に更新を行い、行政データと突合して重要な基礎資料の充実を図った。

生涯研修カードの運用はこの6年間で十分に軌道に乗ったと言える。また、事務局の環境整備については、グループウェアやオンラインストレージ等の導入、歯科技工士会館の改修等により、業務効率向上と情報共有強化を図ることができた。

被災時の確認マニュアルを策定した。また、備蓄品の整備や避難訓練の実施により、防災意識を高めた。行政や関係団体との連携、情報収集としては、災害歯科医療対策協議会やJIMTEF災害医療研修コースへの参加を継続し、災害医療の概念の理解を深めた。